



東京の会通信

No.292

2020年9月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髓バンクを支援する
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区

住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377

(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>

e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

献血ルーム活動を再開しました！

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、東京の会では2月末から献血ルームでのドナー登録推進活動を休止していましたが、7月から再開しました。7月は11日(土)と24日(金)に新宿東口駅前ルームで登録会を行いました。

活動に際しては、検温、手指の消毒、マスクの着用、さらに飛沫感染防止に配慮して説明のテーブルに透明シートを張ったつい立てを置いたり、説明を聞く人の正面には座らないようにして説明を行い、一人説明を終える度にテーブルやボールペン、説明グラビアをアルコール除菌シートで拭くなどの対策を取りました。

献血ルームには現在のような状況でもコロナ以前とあまり変わらない多くの来場者があり、日赤の血液確保に対するたゆまぬ努力を感じるとともに、協力して

くださる献血者に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

対面で説明を聞くことには抵抗があるかと心配でしたが、ドナー登録の声かけに「説明を聞きます」と言うてくださる方が多く、両日とも13時から17時の午後だけの活動でしたが、2日合わせて20名以上に説明、11名に登録していただくことが出来ました。

自粛期間後7月から8月にかけて、東京ではまた新型コロナウイルス感染者が増加の一途をたどっていて、再びいろいろな活動が制限されるような事態が懸念されますが、今後も参加説明員として自身の健康管理に努め、日赤の担当者と連携を取りながら、出来る限りドナー登録推進の活動を継続して行きたいと考えています。
(松下倫子)

ドナー支援制度、東京23区、26市2町の51自治体に

平成26年(2014年)9月に都議会へ請願書を提出し、全会一致で採択されたことから始まった「骨髓移植ドナー支援制度の策定」について、東久留米市が9月より実施する予定であることから、全都の主要自治体すべてで実現の運びとなりました。しかし、残念ながら、多摩地区の1町1村と島しょ部がまだ実現に至らず、これからも機会あるごとに要請していく必要があると思いますが、行政側の自主的な判断にも大きな期待をしたいと思います。

制度実現の原動力になったのは、この6年間、毎年、猛暑の中を、会員で手分けをして、東京都すべての自治体と議会に対して要請、請願、陳情などを繰り返し

行い、制度の必要性を訴えてきたことです。

また、ドナーになられた方の制度利用についても、令和元年度は前年比約50%増に達しており、制度の浸透とともに、東京の会が積極的に参加しているドナー登録会で説明員により繰り返し説明が行われている結果であると思います。

最後に、ドナー支援制度実現のために行動してくださいました東京の会の皆さま、請願、陳情、要請などを受け入れてくださいました行政、議会の皆さま、ご支援をいただいたすべての政党、会派の皆さまにも心からお礼申し上げます。
(代表 三瓶和義)

秋のチャリティコンサート中止のお知らせ

11月に予定していたピアノ三重奏コンサートは、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、残念ながら中止します。毎年コンサートを楽しみにされていた多くの皆様には大変申し訳ありませんが、ご理解ください。この間多くのイベントが中止となっており、収益金や寄付金が得られないことにより東京の会の財政がさらにひっ迫することが懸念されます。引き続き東京の会の活動に対する皆様の温かいご支援をお願いいたします。

第31回東京の会総会をオンラインで開催

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、今年の東京の会の定期総会は集会形式で開催することができず、6月27日にオンラインで開催しました。総会では、2019年度活動報告・会計報告・会計監査報告・業務監査報告、2020年度活動方針を提案し、全議案が承認され、2019年度の役員を選出して終了しました。議案の概要を以下に掲載しますのでご参照ください。

2019年度 東京の会 活動報告

2019.4.1～2020.3.31

■総会・定例会・おりおり(会報発送作業)

- (1)定期総会 第30回定期総会 6月29日開催 (於：こくみん共済coop東京会館会議室)
- (2)定例会 毎月第4土曜日11回開催 (於：こくみん共済coop東京会館会議室)
※3月は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止としました。
- (3)おりおり 隔月第1土曜日5回開催 (奇数月) (於：品川運輸会議室)
(東京の会会報・骨髓バンクニュース・さい帯血バンクニュース等、発送作業)
※3月のおりおりは、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止としました。
3月号は5月の会報に同封して密を避け少人数でおりおりし発送しました。

■ドナー登録会

- (1)日赤献血ルームでの献血・骨髓バンクドナー登録推進活動・献血者数
- 4/26 (金) 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者9名 献血者91名
- 5/24 (金) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者9名 献血者190名
- 6/08 (土) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者10名 献血者219名
- 6/28 (金) 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者8名 献血者107名
- 7/13 (土) 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者12名 献血者124名
- 7/26 (金) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者11名 献血者158名
- 7/23 (金) 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者10名 献血者87名
- 9/27 (金) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者6名 献血者157名
- 10/12 (土) 有楽町献血ルーム
台風19号関東直撃のため延期
- 10/20 (日) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者7名 献血者240名
- 10/25 (金) 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者10名 献血者87名
- 11/22 (金) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者6名 献血者180名
- 12/07 (土) 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者13名 献血者134名
- 12/13 (金) 新宿東口駅前献血ルーム
ドナー登録者7名 献血者93名
- '20/1/24 (金) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者3名 献血者166名
- 2/8 (土) 有楽町献血ルーム
ドナー登録者9名 献血者228名
- ※以降、新型コロナウイルス感染拡大のため、献血ルー

ム活動を自粛しました。

- 2/28 (金) 新宿東口駅前献血ルーム
3/14 (土) 新宿東口駅前献血ルーム
3/27 (金) 有楽町献血ルーム

2019年度実績15回 ドナー登録者130名 献血者2,261名

(2)献血ルーム以外での登録会

- 8/27 (火) 西東京市役所田無庁舎
献血併行登録会6名 献血者43名
- 11/23 (土) 田無神社
献血併行登録会6名 献血者15名
- 12/19 (木) 西東京市役所保谷庁舎
献血併行登録会7名 献血者49名
- 3/30 (月) 西東京市役所田無庁舎
献血併行登録会3名 献血者34名

ドナー登録者22名 献血者141名

- (3)2019年度 献血ルーム活動のまとめ 松下倫子
(東京の会ドナー登録担当 地区普及広報委員)

2019年度 東京の会献血ルームにおけるドナー登録推進活動は、前年度までと比べて厳しいものになりました。常時活動に参加出来るメンバーがとうとう3～4名になってしまい、何とか毎回2～3名の説明員を揃えて活動を続けている状態です。「仕事の休みが取れたら」あるいは「体調が良ければ」と言ってたまに参加してくれるメンバーが、人数が足りない日に助けてくれなかったら、予定した活動を維持してやって行くことは出来なかったと振り返ります。かつては1回に7～8名が参加して20名ものドナー登録者を獲得していた東京の会の献血ルーム活動ですが、2019年度は参加人数が減り、活動時間を有楽町献血ルームでは午後の4時間だけに短くしたこともあり、1回の活動での登録者は半減しました。

その上に大きな打撃となったのは新型コロナウイルスの感染拡大です。2月下旬からはイベントの自粛、3月下旬には感染爆発の重大局面と言われ、2～3月に予定していた3回の献血ルームでの活動を中止せざるを得ませんでした。

ドナーを待っている闘病中の患者さんを思うと、こんな感染が広まってドナー登録を呼びかける機会を失ったことが悔しくてなりません。

2019年度は、有楽町と新宿東口駅前の献血ルーム合わせて15回の登録会を行い、130名のドナー登録がありました。

2020年度も当面4～6月の活動を休止し、新型コロナウイルスの終息を待ち、落ち着いてまた活動が出来るようになったら、中止した分も合わせてドナー登録推進活動に力を入れて行きたいと考えています。

■患者支援活動

- (1)医療その他セミナー

6/29 第30回定期総会後の講演会

◎講演テーマ 『未来医療へ向けて：免疫療法の進歩とAIの導入』

講師：東京大学医科学研究所附属病院病院長

東條 有伸 先生

＜シンポジウム＞

『体験談&活動報告』

体験談「海を越えてつながった命」

(株) 日建設計 周 燕さん・磯崎 有紀さん

活動報告「日建設計ボランティア部の活動について」

(株) 日建設計 西 勇さん・千葉 美幸さん

4 東京都への要請について

(1)東京都全区市町村への骨髄移植ドナー支援制度導入推進について

(2)骨髄バンクドナー登録説明員養成及び登録推進事業について

(3)都内小・中・高校における骨髄バンク普及啓発について

5 普及広報活動

(1)会報「東京の会通信」発行

隔月1日発行(奇数月)／第1土曜日発送6回発行。

2020年3月号まで289号発行

会報と共に、骨髄バンクニュース、さい帯血バンクニュース、その他適宜、発送

(2)セミナー・講演会・イベント開催および参加

5/18 全国骨髄バンクボランティアの集いin山形

～未来へつなぐ命と心のバトン～

「パネルディスカッション」

人生のターニングポイント

「フォーラム」

心のバリアフリーセミナー 他

5/19 全国協議会総会 加盟団体として全国協議会総会・代表者会議へ参加。

7/25 都議会公明党・日本共産党東京都議団への要請活動

①ドナー支援制度の都内全自治体での実施(未実施市町村への要請)

②東京都による骨髄バンクドナー登録説明員養成講座の開催(説明員募集)

③都内小・中・高校での骨髄バンク普及啓発(児童・学生向けパンフレットの配布)

東京都福祉保健局疾病対策課への要請活動(要請内容は上記と同じ)

9/5 都議会立憲民主党への要請活動(要請内容は上記と同じ)

9/21-22 新宿熊野神社祭礼・西口睦イベント会場
で骨髄バンク普及啓発と募金活動をおこなう。街頭での骨髄バンクチラシ・ティッシュを配布。雨模様のため人出は例年より少ない。募金箱へ寄付をした人は「わたあめ」を1回作れると宣伝。街頭募金集まる。

9/28-29 品川宿場祭り 東京港南マリンロータリークラブに協力 普及啓発活動・バザー出店。
マリンのメンバーは、最少人数しか参加できな

いので、規模は縮小。後日、東京港南マリンロータリークラブより151,651円のご寄付をいただきました。

10/14 「グリーンリボンランニングフェスティバル」 駒沢公園陸上競技場

全国協議会をとおしてランニング参加。7人で42.195km完走。

11/4 東京の会チャリティーコンサート「響」開催。於) 求道会館

求道会館で2回目のコンサート。コンサート実行委員会を組織し、昨年の反省を生かすために事前協議を行い、全体の役割分担・チケット販売方法の明確化、会場での当日の流れなどを打合せて定例会で確認した。チケット販売を一元管理し、売れている枚数を即座に可視化ができ、混乱はなかった。会場は音響効果が高く大変響きが良く観客からも好評判。演奏者の三戸さん、小澤さん、高田さんも求道会館は他にない響きだと絶賛される。患者・ドナーの体験談は来場者から聞けて良かったとの声があった。

チケット販売122枚／寄付・募金箱98,210円／バザークッキー売り上げ48,700円

最終的な収益は、17万円程度となった。全国協議会に、20,000円の寄付をおこなう。

11/10-11「スノーバンクイベント2019」(代々木公園)に参加。荒井daze善正さんが代々木公園に雪を降らすスノーボードイベント。今年も代々木公園に2日間献血バスを誘致。2日間で、骨髄バンク登録112人 献血236人。東京の会説明員5名ボランティア6名

11/23 西東京青年会議所主催の講演会「いのちの授業～知ろう！！献血の大切さ！！～」(講師:小林麻耶さん、友寄蓮さん)が開催され、それに合わせて隣接の田無神社で東京の会が協力して献血併行登録会を行った。東京の会からは説明員と呼びかけ要員として4名が参加、あいにく一日中雨の外のテントでの活動だったが、6名のドナー登録があった。

1/2-3 箱根駅伝沿道にて普及啓発。箱根宮ノ下は鉄道不通のため参加せず。東京の会から田町会場に2日間、のべ17名参加。

2/29 全国協議会 関東甲信越ブロックセミナー
於) こくみん共済coop東京会館

新型コロナウイルス感染拡大のため縮小開催

3/1 東京マラソン沿道応援

新型コロナウイルス感染拡大のため中止

3/8 東京新都心ライオンズクラブ他東日本大震災復興支援チャリティー

新型コロナウイルス感染拡大のため中止

以上

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和2年7月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	527,924	66,444	59,729
6-7月登録分	3,954	377	409
6-7月抹消数	3,825	474	—
実質登録増	129	▲97	—

患者とドナー登録・適合状況(7月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計) 833,464人

ドナー登録抹消者数(累計) 305,540人

HLA適合報告ドナー数(累計) 328,845人

実質登録患者実数(現在) 1,858人(国内1,282人)

HLA適合患者数(累計) 47,512人(患者累計数の79.5%)

非血縁移植実施数 24,553例(6-7月実施157例)

2019年度 決算報告

〔収入の部〕		〔支出の部〕		〔資産増減明細〕		
				資産内容	繰越資産期末	前年度繰越期首
会費	259,000	収益事業費	337,440	現金	38,493	0
寄付	1,192,798	業務諸経費	169,015	郵便振替口座	1,062,228	0
賛助会費	30,000	通信発送費	401,694	郵便貯金	471,972	1,569,768
事業収入	422,700	光熱費	11,232	普通預金	50,382	429,578
受取利息	10	交通費	164,000	敷金	45,000	45,000
助成金	38,500	普及広報費	398,910	差引	1,668,075	2,044,346
		賃借料	635,991	当期余剰金		▲ 376,271
小 計	1,943,008	損害保険料	30,100	合 計	1,668,075	1,668,075
合 計	1,943,008	全国協議会会費	120,000			
		支払手数料	4,397			
		寄付金（全国へ）	20,000			
		慶弔費	26,500			
		小 計	2,319,279			
		当期余剰金	▲ 376,271			
		合 計	1,943,008			

＜収支差額＞
収入－支出＝▲376,271

＜資産増減＞
期末－期首＝▲376,271

2020年度活動方針

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3月から東京の会の活動を実質的に停止せざるを得ない状況になりました。5月末に緊急事態宣言は解除されましたが、今後も警戒が必要な状況が続くことが予測されます。

このため、2020年度については、「新しい生活様式」に即して感染予防を図りながら、以下の活動を行います。

〈1〉ドナー登録推進

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、ドナー登録者数が減少しています。日本赤十字社と連携して、7月から献血ルームにおける活動を再開し、一人でも多くのドナー登録者の確保に努めます。

〈2〉患者・患者家族への情報提供と支援

新型コロナウイルスの感染が再び拡大すれば、医療機関や医療関係者に大きな負荷がかかり、血液難病患者の治療にも影響が出ることが懸念されます。また、感染した場合のリスクが高いため、不安を抱えている患者も多いと思われます。患者の闘病に役立つ情報を発信するとともに、患者・医療関係者に対する具体的な支援を検討します。

〈3〉骨髄バンクの普及啓発活動

会報やインターネットを活用した情報発信をおこなうとともに、イベントの開催や地域における普及啓発

活動については、新型コロナウイルス対策による社会的な規制を踏まえたうえで実施します。

〈4〉より機能する移植医療を目指して

新型コロナウイルスの影響により血液難病患者の治療に支障をきたすことのないよう、日本骨髄バンクや日本赤十字社、厚労省、東京都等に必要な対策を求めます。

また、東京都に対して、ドナー支援制度の全自治体での実施や、ドナー説明員養成、ドナー休暇制度の普及啓発などの政策実施を要望します。

〈5〉持続可能なボランティア活動に向けて

「新しい生活様式」に即したボランティア活動を実践するとともに、事務所や会報発行の見直し等による収支改善、新たな活動の担い手の育成などを進め、東京の会の活動の持続を図ります。

2020年度東京の会役員

《代 表》 三瓶 和義	《会 計》 大塚 礼子	《業務監査》 柴谷 みち子
《代表代理》 若木 換	森永 富美子	名川 一史
《事務局長》 二見 茂男	《会計監査》 大塚 和博	《顧 問》 野村 正満
《事務局次長》 光江 健太郎	竹崎 恵子	新田 恭平

東 京 ド ナ ー 登 録 会 予 定 (9月・10月)

9月9日（水）赤羽駅東口

10月27日（火）墨田区役所

10月29日（木）台東区役所

貴重な経験をさせて頂きました

Message from Donor

小堀 誠人

まず、骨髓バンクにドナー登録したのが、はっきりと覚えてはいませんが今から20数年前で20代半ばだったと思います。それまでは白血病の事も、病名を聞いた事がある程度で詳しい内容までは知りませんでしたし、治療に関しても骨髓移植をするという事をなんとなく聞きた事がある程度でした。

著名人では子供の頃にテレビドラマで見ていた「西遊記」の三蔵法師役をつとめていた女優の夏目雅子さんの死因も白血病だったというくらいで……。それと治療のための骨髓移植も輸血や献血と同じような感覚で、身内や親族で簡単にできるんだと思っていました。

登録のきっかけは何と言っても「骨髓バンク」で有名な大谷貴子さんと知り合ったことです。私の住んでいる地域の地元の消防団や商工会、青年団等の活動でお世話になっている先輩の奥様として嫁いで来られた事でした。当然今もご夫婦揃いで親しくさせて頂いております。

また、その頃に骨髓バンクを応援し盛り上げる活動を地元でやっていて、そのお手伝いとして駅前でビラ配りをしたりもしました。そして周りの知人や先輩方も登録したり、既にされている方などがいらっしやっしたので気楽に登録しました。それから色々とうかがって、血液型の様にA型同士B型同士のような単純でないこと等、詳しく知っていききました。

一方、私の地元には囃子の保存会があり、そこに加入して活動もさせて頂いております。夏祭りがメインで、その時期には毎日のように練習もあり市内あっちこちで太鼓や笛の音が響いております。ちょうどドナー登録したのとそちらの保存会に加入した時期も同じくらいだったのですが、私の町内は長年休会していて町内の太鼓連が復活したのも同じ位の時期でした。そのため別の町内から指導に来ていただいていたのですが、その方達の中に闘病中の方もいらっしやいました。お祭りが大好きで、お囃子も大好きで、初心者私達に熱心に指導をしてくれて、また病気の事も色々教えてくれました。のちにその方は適合する方が見つからず残念ながら亡くなられてしまいました。身近にそういう方が居たり、大谷さんとも知り合ったりしたのがきっかけでした。

登録はしましたが、それから20年近く過ぎて最初のドナー適合の通知が来たのは今から3年くらい前でした。その時には、一度血液検査をただで提供には至りませんでした。それまでは、全然骨髓バンクの事も忘れていましたし、適合する方も現れないままこのまま登録抹消の年齢になっ

てしまうだろうと思っていました。

そして、またドナー適合の通知が届きました。前回知りましたが、適合したから必ず提供するとは限らないという事。当然だと思います。患者さんにとって適合したドナーさんが複数いれば一番ベストな人から移植を受けたほうがいいわけですし……。なので、今回も最終的な提供まで行く前にコーディネーターが終わりつつあるかも？という感覚で最初の血液検査に行ったような気がします。

ところが今回は「ドナー選定のお知らせ」が届き最終的な候補者に選ばれました。最終同意の面談日にはコーディネーター、家族、担当医師、麻酔科医、弁護士というメンバーで一通りのリスクを含めた説明を受けました。

家族は多少の不安を感じたかも知れませんが、私には不安感はありませんでした。大谷さんが近所にいらして色々な話を伺っていたのと、何よりも地元の消防団等でお世話になっている先輩が、今から15～16年前に提供したドナー経験者なのです。なので骨髓採取前の体調管理の事や採取後の生活の事など詳しく伺っていました。

いよいよ入院の当日。さすがに緊張はしました。骨髓採取や提供をする事に対しての不安はありませんでしたが、今まで自分自身の病気や怪我での入院の経験が一度も無かったので今回が初体験だったのです。そういう意味での緊張でした。当然、病院食を食べるのも初体験でした。

そして今回の骨髓提供とともに自分にとっての大きな変化があります。それは、禁煙継続中です。今現在47歳で正直に言うと15歳から30年以上吸い続けてきたタバコを禁煙しています。今まで禁煙しようと思ったことすらなく禁煙出来ないと思っていました。通勤で公共交通機関を利用するわけでもなく、仕事でも自宅でも自由に吸える環境にいたので禁煙は無理だと思っていました。入院する前日の夕方まで吸っていました。「明日から入院で吸えなくなるから我慢しないと……」と思いそこからのスタートです。そして退院してからも「入院中我慢出来たのだからもう少し我慢してみよう!」という事で一週間が過ぎ、10日が過ぎ、一か月が過ぎ……現在に至ります。そういう事で今回色々な貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。



提供直後の筆者(右)
左は先輩ドナーの今成さん

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2020.6.16～8.15)

横田光弘さん 5,000円／村上順子さん 2,000円／石崎保夫・友子さん 100,000円
 株すびか(竹崎恵子さん) 30,000円／幸川はるひさん 7,000円／二見茂男さん 10,000円
 若木 換さん 10,000円／光江健太郎さん 13,000円／水流正秀さん 7,000円／(株)マルゼン 3,484円
 大塚礼子さん 2,000円／高橋真知子さん 5,000円／三瓶和義さん 7,000円／松下倫子さん 7,000円
 山崎裕一さん 7,000円／柴谷みち子さん 5,000円／国分秀樹さん 10,000円／土屋虎男さん 5,000円
 内田恵美子さん 3,000円／中谷哲郎・光子さん 20,000円／新田恭平・雅子さん 30,000円
 衣川千代子さん 10,000円／櫻井洋子さん 7,000円／水野暁子さん 10,000円／小山内直樹さん 2,000円
 手塚春枝さん 2,000円／鳥羽幸子さん 50,000円／安藤澄子さん 2,000円／中野義樹さん 50,000円
 松尾美幸さん 7,000円／山崎治夫さん 5,000円／小山田ヤエ子さん 30,000円／小野澤恵美子さん 2,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。



▼新型コロナウイルス感染症の第2波が到来しています。6月末頃から再び増加に転じた感染者数は、あっという間に緊急事態宣言下の4～5月のピークを超え、8月10日には全国で15,000人の大台を突破しました。その後お盆休みを経てやや減少し、8月19日現在で12,506人となっています。

▼東京では8月1日に472人の新規感染者が出ました。大都市以外でも、沖縄など多数の新規感染者が出る地域も増えてきています。しかし政府は緊急事態宣言を出すことなく、観光業支援のためのGO TOキャンペーンを前倒して実施するなど、経済重視の対応を取っています。

▼政府が緊急事態宣言を出さないのは、経済活動を止めれば企業の倒産や失業者が増加することが明らかで、休業補償や経済支援策で莫大な支出が必要となるからだと思われます。また、新規感染者数の増加に対して、重症者数や死亡者数がそれほど増えていないこともあり、医療崩壊は起きておらず、経済活動との両立は可

能だと判断しているのでしょう。

▼しかし、当初は若年層の夜の街での感染がほとんどでしたが、徐々に高齢者に広がり、家庭内感染や職場内感染も起きています。重症者・死亡者数もじわじわと増えてきています。もしこのまま第2波がピークを過ぎても、秋から冬にかけて第3波が来ることは十分予測できます。

▼重要なのは、重症者が増えたときに対応できる医療体制を確保することであり、そのために医療機関や医療従事者への手厚い支援を行うことが、GO TOキャンペーンよりも優先順位が高いのではないのでしょうか。新型コロナウイルス患者の受け入れを増やすほど病院の赤字が増えたり、日夜懸命に患者の治療に当たっている医療従事者に賞与も払えないといった現状は何としても変えていかなければなりません。

▼医療崩壊が起これば、血液難病を含むがんや他の疾患の患者の治療もストップする事態になりかねません。政府として法改正してでも、医療機関や医療従事者への財政的な支援や、専門病院の開設など、大胆な政策をとるべきだと思います。東京の会では、毎年この時期に東京都の次年度予算について政党や担当部局へ要望を出していますが、今回は新型コロナウイルス対策と医療現場への支援を強く求めていく予定です。(S)

東京の会 「9月、10月定例会」 について

オンライン定例会9月19日(土) 10月24日(土) 17:30～

新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、当面の間、定例会はZoomを利用したオンライン開催とします。Zoomによる会議参加案内は、東京の会の会員向けのメーリングリストで通知します。メーリングリストへの加入を希望される会員の方や、定例会へのオブザーバー参加を希望される方は、東京の会にメールでご連絡ください。

東京の会代表メールアドレス: marrow_tokyo@yahoo.co.jp

※通常定例会の再開時期については、メーリングリストやホームページ、会報等でお知らせします。

11月会報発送 「おりおり」のお知らせ

今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようにお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

11月7日(土) 13時00分より

場所: 品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8) JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。